

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	法政大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	ホウセイダイガク
	大学等名1(代表大学等)※学校コード	F113310103484
	大学等名1(代表大学等)学校本部所在地	東京都
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立大学
	科目名	Internship
	学部・研究科等名	経営学部経営学科Global Business Program
	担当教職員名・役職	戎谷梓・任期付准教授
	受講者数実績年度	令和3年度
	受講者数※インターンシップ参加者数	6
	受入企業等数	1
	受入企業等名	株式会社OpenDNA
	インターンシップの分類	6.低学年(大学1年次~2年次程度)からのインターンシップ
		8.大企業・グローバル企業でのインターンシップ
9.中小企業でのインターンシップ		
11.その他		
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	英語でのインターンシップ	
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事
		2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容	
1-3.上記回答内容に関する詳細	受け入れ企業による海外の複数の国や地域を見据えた事業開拓の一環として、現地出身のインターンである学生が社員と共に模擬的な市場調査を行い、調査結果について役員向けにプレゼンテーションを行う。	
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している
		5.当該インターンシップは、選択必修科目として実施している
		8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次	大学 学部1年
大学 学部2年		
大学 学部3年		
大学 学部4年		
2-4.当該インターンシップで付与される単位数	大学 2単位	

2-5.上記回答内容に関する詳細	英語学位である経営学部経営学科Global Business Program (GBP) 所属の学生1年～4年次を対象に夏季休業期間中の約2週間の英語での企業インターンシップを組み合わせた専門科目「Internship」として、英語で実施している。本科目では、日本における実際の経営や組織運営の現場を体験し、理解を深めることを目的としている。
3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
3-2-1.該当する事前学習の内容	<p>1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法を身に付ける授業等を行っている</p> <p>2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている</p> <p>3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている</p> <p>4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している</p>
3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容	
3-2-2.該当する事後学習の内容	<p>1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている</p> <p>2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている</p> <p>3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている</p>
3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容	
3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している
3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容	
3-3-1.事前学習の内容に関する詳細	全4回の事前授業の中で、インターンシップの趣旨や学術的意味での目的的理解（第1回）、日本企業が求める社会人像についての理解（第2回）、インターンシップ先の企業研究（第3回）、インターンシップ中の目標とその達成方法に関する理解（第4回）の授業を実施している。
3-3-2.事後学習の内容に関する詳細	全3回の事後授業の中で、事前授業で得た理解と受け入れ企業での実際の就業体験との比較から見える新たな学び（第1回）、就業体験を学術的学びとして捉え直すための情報整理（第2回）、学術的学びを発信するための学内での報告会（第3回）を実施している。

	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細	担当教員が、インターンシップ開始直前、当日、中盤、最終日に分けて学生とコンタクトを取り、日誌に記載の内容に基づいて目標達成状況を確認。目標の最終的な達成に向けたアドバイスを行っている。また、就業中の学生を観察するためインターンシップ実施期間中に受け入れ企業を訪れ、学生のモニタリングおよび各学生のメンターとも意見交換を行っている。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み	
	4-3.上記回答内容に関する詳細	受入先企業からの評価および学生からのレポートを用いて、評価・フィードバックを行い、学生自身の経験が今後の学びやキャリアへの動機づけに資するような指導を行っている。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合	実施期間10日間
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容	
	5-3.上記回答内容に関する詳細	株式会社OpenDNAにおいて2021/8/6～8/20のうち10日間
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してプログラムを設計している
		2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している
		3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている
		4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容		
6-3.上記回答内容に関する詳細	インターンシップ実施にあたり、企業との打合せを複数回実施し、GBPインターンシップの意義や学生の特性を企業担当者とも共有し、プログラムの設計段階から学生に対する評価まで参画いただいている。	

	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	https://syllabus.hosei.ac.jp/web/preview.php?no_id=2100137&nendo=2021&gakubu_id=GBP&gakubueng=GBP&t_mode=pc https://hosei-hondana.actibookone.com/content/detail?param=eyJjb250ZW50TnVtIjoxMjUzOTEsImNhdGVnb3J5TnVtIjo3MDczfQ==&pNo=20
問い合わせ先	大学等名	法政大学
	担当部署名	学務部学部事務課
	担当者役職名	課長
	担当者氏名	佐藤 琢磨
	電話番号	03-3264-9234
	メールアドレス	pess@hosei.ac.jp